【高等学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名

佐賀県立佐賀北高等学校通信制

- 前年度 評価結果の概要
- ・ルーブリックによる評価を確立した。
- ・スクール・ミッション、スクール・ポリシーを策定した。学校評価に取り入れる。
- ・県内唯一の公立通信制高校の役割を再度見直す機会や将来の通信制高校の在り方について検討する必要性がある。
- 2 学校教育目標

自主・自立を重んじ、知性を高め、人格の完成をめざす。

① 心身ともにバランスのとれた能力の伸長を図り、個性を磨く。 ② 自由と責任を両立させて、明るく、思いやりのある学校生活を作る。 ③ 社会の変化に対応できる柔軟性、創造性、国際性を身につける。

達成度(評価)

A:十分達成できている B: おおむね達成できている C: やや不十分である D: 不十分である

- 3 本年度の重点目標
- ・ 多様な学びを通して、それぞれの課題を解決・克服し、自分の将来を見据えて、自己の在り方・生き方を定め、他者との関わりを大切にできる人間力を育てる。
- ・「高校卒業に必要な資質と能力」「自分自身をマネージメントできる力」「コミュニケーション能力」を育成する。
- ・個別指導をさらに充実させ、学習意欲の向上を図り、単位修得率のアップを目指す。
- ・就職・進学における個別のニーズに応じた進路指導の充実を図る。

重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				
)共通評価項目										→ 4×4□ 1/4 7×
重点取組			E (4.45 Ta. 67	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	◎単位習得率の向上	〇全学年の単位習得率向上(70%以 上)	「学習のしおり」『樟蔭』の有効活用 スクーリング時の学習状況の通知 生徒の予習復習の定着を図る 期限切れリポートについては、返送時に警告す	В	・「樟蔭」はわかりやすい紙面作成に努めている。「学習のしおり」は新入時や、活動生のHR で確認に使用されている。前期科目の単位習 得率の平均値は70%であった。	A	「樟蔭」やスクーリング連絡、HPなどでの連絡により、平均出席率は目標である65%を超えている。単位修得率は前期科目70%であり、全体を通しても70%を超える見込みである。	A	・妥当な評価である。	教務部 学習指導部
	○学び直しや学習会の強化	○「学び直し学習会」の開講と充実	・「樟蔭」や生徒会等を通して、学び直し学習会 の広報活動を行う	В	・学び直し学習会への参加者は少なかったが、そのうちの7割が来年度も参加したいと答えていたので、一定の成果を収めることはできた。	A	・進学学習会の参加者は最終的に1人になったものの、最後まで学習を続けた結果、共通テストでは一定の成績をおさめることができた。	A	・妥当な評価である。	進路指導部 学習指導部
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、 他者への思いやりや社会性、倫理観や 正義感、感動する心など、豊かな心を身 に付ける教育活動		・スクーリングでは、朝の挨拶指導や服装等に注 視し、高校生としての道徳教育を推進する	A	・LHRや各教科のスクーリングにて、高校生としての道徳教育やモラルの意識は向上している。	A	・生徒たちの道徳教育やモラルに関する意識は、挨拶や服装、授業態度等の学校生活を送る姿勢をみると、規律を遵守する意識が向上していることが感じられる。	A	・妥当な評価である。	生徒指導部 保健·教育相談部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の 充実	Oいじめアンケートの実施(年に2回)	・LHRや学校行事を利用していじめ撲滅を促進 する	A	・第1回いじめ体罰アンケート調査を7月に実施し、アンケート結果については件数は0件であった。第2回は1月に実施予定	A	・前期、後期の1回ずつアンケート調査が実施できた。その結果から課題となる事案はなく、 生徒たちは安心、安全に学校生活を送っている様子が伺える。	A	・妥当な評価である。	生徒指導部 保健·教育相談部
	自主・自律の学習活動を通して、自立 した社会人の育成に努める。	〇(学校独自成果指標・任意) スクーリング出席とリポート提出・合格 が通信教育の二本の柱であるとのこと を、生徒に強く意識させる。	・LHR、SHRの機会に、通信教育の二本柱らを 繰り返し話していく。	A	・スクーリング前には各学年会において、生徒に伝える重要事項について話し合いを行い、 周知徹底を行った。今後もホームルームへの 出席を促したい。	A	・各学年会が上手に機能し、年間を通じてスクーリングと単位取得が良好に実施できた。 ・リポートとスクーリングや他の単位取得方法 も丁寧に説明し、定着させることができた。	A	・妥当な評価である。	各学年
●健康・体つくり	●「安全に関する資質・能力の育成」	●生徒の交通事故をO(ゼロ)にする	・交通ルールの意識を高める指導の充実を図る ・パイク・自動車通学許可願いの提出	A	・生徒自身のドライバーである自覚を高め、安全運転に務める意識が向上した。	A	・特に、本校の生徒が登下校において問題となる事例や事案はなく、校外における交通事故等の報告はなかった。	A	・妥当な評価である。	生徒指導部
		〇(学校独自成果指標・任意) 健康診断(学校実施分)の受診率を昨 年度より向上させる。 生徒の参加しやすい種目を取り入れ	・「スクーリング連絡」、『樟蔭』などを活用し生徒 へ事前の広報を行い、受診者、参加者を増や す。	В	・7月の健康診断の受診率は昨年とほぼ同じであった。次年度は、4月から継続して生徒への広報を実施したい。	A	・7月の健康診断の受診率は約70%で昨年度 とさほど変わりなかった。 ・10月の体育大会を感染症対策に考慮して球 技大会とした。100名を超えて参加者があっ	A	・妥当な評価である。	保健·教育相談部 教務部
●業務改善・教職員の働き 方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間 の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校 等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日、学校閉庁日の設定 ・出退勤システムの有効活用 ・ICTの活用による業務の効率化	A	・定時退勤日、学校閉庁日について問題なく 実施できている。 ・業務についても見直しをすすめ、学校HP、 メール、Web回答できるものについては代替	A	・後期からスクーリングの振休を固定せず、教職員が働きやすいようにした。 ・中継、アンケートの回収などICTを活用する 場面では必ず教職員にも情報提供を行った。	A	・妥当な評価である。	管理職
	○労働環境の改善	〇「時間外業務が縮減された」と回答した教職員 70% 以上 〇「職場の環境改善が行われた」と回答 した教職員 70% 以上	・業務の効率化と代替、縮減、標準化・衛生委員会の協議事項の確実な実行・産業医面接の活用	A	・時間外は月平均 16時間33分 であり 昨年度 の同時期平均より 1時間少なくなった。4月、 9月の時間外が多いため工夫したい。 ・衛生委員会の協議事項は実行している。産 業医面接はここまで該当者はいない。	A	・12月までの時間外は月平均15時間50分であり、昨年度とほぼ同じであった。学期の4月9月の業務を改善したい。産業医面接の該当者はいない。 ・職場環境の改善を目指したい。	A	・妥当な評価である。	管理職

●・・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育 ★・・・唯一無二の誇り高き学校づくり

- 総合評価・ 次年度への展望
- ・各評価項目については概ね達成できた。重点目標に掲げている能力や人間力の向上ができたのではないかと思う。また、個別指導や学習会で単位取得、就職、進学には対応できたが、就職、進学については参加者が減少しているため、現状の把握と対応の必要がある。 ・多様な生徒については、各担任の尽力で対応できている、来年度も状況は変わらないため、さらに組織的に対応できるような体制を構築する必要がある。 ・評価項目にはないが、観点別評価を今年度から導入している。評価は一番大事な問題であるため、来年度も継続して研究をすすめる。